

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, June, 2004

課長 関 勉 T. Seki 幹事 佐藤裕久 H. Sato
幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

1. 6月の状況 (佐藤)

C/2001 Q4 (NEAT) (写真 a) は観測しやすい位置に昇ってきた。まだ明るくタイプ I の細長い尾と、タイプ II の幅広い尾が見えている。双眼鏡や小望遠鏡での観測対象としてここしばらくは観測できるだろう。一方、C/2002 T7 (LINEAR) (写真 b) の方は、西天低く見えていた。条件のよい場所などではタイプ II の尾が観測された。また6月初旬には微かなアンチテイルもみとめられた。



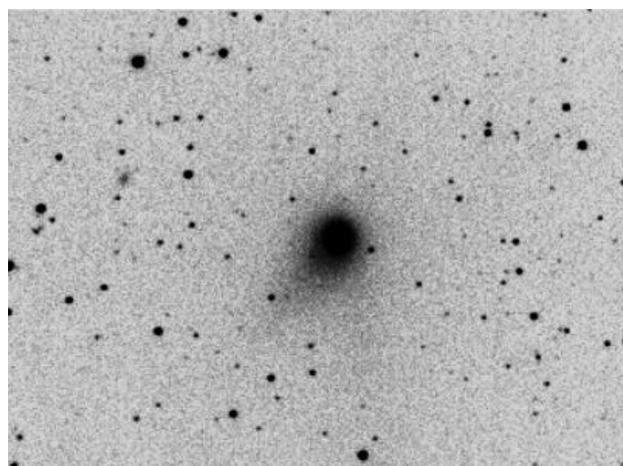
(写真 a) C/2001 Q4 (NEAT) 2004,06,11
20h 34m ~ 20h 39m (JST) exp. 5 m 60cm L + TM400
芸西天文台 関 勉



(写真 b) C/2002 T7 (LINEAR) 2004,06,11
20h 30m ~ 20h 31m (JST) exp. 60s 60cm L + TM400
芸西天文台 関 勉



(写真 c) C/2004 H6 (SWAN) 2004,06,14
5h 35.1m ~ 5h 37.0m (AEST) exp. 60s x4
180mm F2.8 S2 Pro Georgetown QLD Australia にて
三重県上野市 田中利彦氏



(写真 d) C/2003 K4 (LINEAR) 2004,06,13
2h 31.0m ~ 2h 32.0m (JST) exp. 60s x1 20cm L + CCD
高知市 下元繁男氏

C/2004 H6 (SWAN) (写真 c)は、6月下旬国内でも観測された。comet-obs 05258によれば、29.8日 UT、長野市の永井佳実氏は10cmx20 双眼鏡で全光度約8.3等と観測した。ただ高度が低く観測数が非常に少ない。今後は見やすい位置に昇るので良い観測材料になるだろう。

C/2003 K4 (LINEAR)は、高知市の下元繁男氏が得た20cm反射によるCCD画像を見ると、南東の方角にハッキリした尾と南に伸びた淡い尾がみとめられる(写真 d)。

双眼鏡や小望遠鏡のよい観測材料になってきた。6月に入り9等台で観測され、光度も6月末には7等台まで達している。9月になる頃には5等台まで増光し立派な尾が見えるようになるだろう。

次の眼視観測がある。

C/2001 Q4 (NEAT)

2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
June	3.46	5.1	10	7	20	140°	4/5	-	10x 7cmB	上原貞治	
	4.46	5.5	10	7	20	140	3/5	-	"	"	薄明中
	4.48	6.3(*3)	14	6	0.2°	108	2/5	4/10	10x 7cmB	佐藤裕久	
	5.47	6.0	8	7	15	140	3/5	-	10x 7cmB	上原貞治	群雲あり
	11.49	6.4	-	-	1.0°	95	-	-	60x20cmR	関 勉	
	13.48	7.1(*3)	7	6	0.5	102	4/5	9/10	10x 7cmB	佐藤裕久	
	13.51	5.9	7	5	-	-	-	-	14x10cmB	岩城好高	
	20.51	6.5	5	-	-	-	-	-	"	"	
	22.53	6.7	6	4	-	-	2/5	-	40x20cmL	上原貞治	
	28.50	7.0/7.5	2.5	5	-	-	-	-	25x15cmB	宇都宮章吾	月明り

C/2002 T7 (LINEAR)

2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
June	3.45	5.5	12	4	-	-	3/5	-	10x 7cmB	上原貞治	薄明中
	4.46	6.0	10	4	-	-	3/5	-	"	"	"
	4.47	6.1(*3)	8	4/	-	-	2/5	3/10	10x 7cmB	佐藤裕久	
	11.47	9.5	3/4	-	30	130°	-	-	60x20cmR	関 勉	
	13.48	7.2(*3)	7	4	-	-	4/5	9/10	10x 7cmB	佐藤裕久	
	22.47	8:	-	-	-	-	2/5	-	40x20cmL	上原貞治	薄明・月
	28.49	見えず	-	-	-	-	-	-	25x15cmB	宇都宮章吾	月明り

C/2003 K4 (LINEAR)

2004	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Obsever	Note
June	5.51	9.9	2	4	-	-	4/5	-	40x20cmL	上原貞治	
	8.55	7.6	5	4	4	60°	2/5	-	"	"	
	13.50	9.1(*3)	3	4/	-	-	4/5	9/10	10x 7cmB	佐藤裕久	
	15.50	8.9(*3)	4	5	-	-	3/5	7/10	"	"	
	28.51	7.5/8.0	2	3/	-	-	-	-	25x15cmB	宇都宮章吾	月明り

29P/Schwassmann-Wachmann 1 がまたアウトバーストを起した。6月に入り、6月4.8日 UT には上尾市の門田健一氏が 25cm 反射で全光度 13.5(CCD)、16.4日 UT には、Catalina Sky Survey が 68cm f/1.8 Schmidt 鏡で、12.1(CCD)、30.7日 UT には、久万の中村彰正氏が 60cm 反射で 12.5(CCD)と観測した。

その他比較的明るい彗星は、C/2003 T3 (Tabur)、C/2004 F4 (Bradfield)、P/2004 F3 (NEAT)、C/2003 H1 (LINEAR)、48P/Johnson などであった。

2004年6月に発見された他の彗星は次のとおり、

C/2004 K3 (LINEAR)

LINEAR サーベイのプログラムコースで発見された小惑星状の天体が他の観測者によって彗星と判明。(IAUC 8350, 2004 June 11)

C/2004 L1 (LINEAR)

LINEAR サーベイのプログラムコースで発見された小惑星状の天体が他の観測者によって彗星と判明。(IAUC 8352, 2004 June 14)

C/2004 L2 (LINEAR)

LINEAR サーベイのプログラムコースで発見された小惑星状の天体が他の観測者によって彗星と判明。(IAUC 8356, 2004 June 17)

2. 芸西便り (関)

1968年高知市上町の自宅で、彗星の位置精測を始めて永い歳月が経ちますが、その時のコードナンバー“370”が36年振りに復活しました。

即ち芸西天文台で、殆ど使われていない口径175mmの反射赤道儀を借りてきて、自宅3Fの屋上に据えたもので1961年に初めて彗星を発見したころは、今の芸西よりも空は良かったほどです。主なる観測は芸西(372)で行いますが、天文台へ行けない場合や、新天体の出現等、緊急の時には、この場所で間に合わせようと言うわけです。既にMPCにはこの場所での観測を送ってあります。昔の“370”を知る村岡健治さんや佐藤裕久さんなんか大変懐かしく思われ、祝福のEメールを送っていただきました。尤も今は明るいので、F5の鏡は眼視的な10~11等星の彗星をキャッチ出来る程度ですが。遠々40kmを走って天文台に向かう事を思えば、寝巻き姿で飛び起きて行って、ホウキ星を発見すると言ったような、便利さが唯一の取り得と言えましょうか。“370”の復活にIAUのマースデンさんも驚いていることでしょう。あの頃は世界的に彗星の観測者が少なく、彼から色々とアドバイスを戴いたものです。

然し観測の本場はなんと言っても“372”です。6月13日の天の川の素晴らしさは「本当にここは芸西だろうか？」と、自分の目を疑うほどに素晴らしく立体感をもって、我に迫りました。

5年ほど昔マウナケアの4200mの山頂で仰いだ天の河を10点とすればその夜の芸西は7点でしょうか。こうなれば今は幻の対日照もアリアリとみえます。黄道が他より幾分明るいのも感じます。願わくばこの様な素敵な星空が永久に続いて欲しい！そしてその下で観測出来ることこそ、我が人生での最高の幸せと考えます。